

# 「滋賀県ICT推進戦略」の方向性の確認について

資料3

## 「滋賀県ICT推進戦略」(平成30年3月策定)の「1. はじめに(4)計画期間」抜粋

…今後の社会経済情勢の変化、ICTの進展、国の政策の動向、次期基本構想の検討・策定等を踏まえ、必要に応じて本戦略の見直しを行います。



## 現在の「滋賀県ICT推進戦略」を確認

	ICT推進戦略等における記述
社会経済情勢	本格的な人口減少社会の到来、生産年齢人口の減少、「働き方改革」への対応等
ICTの動向	ネットワークの高速化・無線化、スマートフォンの爆発的普及、IoTの進展、データ流通量の飛躍的増大、IoT時代の通信基盤(5G、LPWA)、人工知能(AI)、自動運転技術等
国の政策	「世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」 「未来投資戦略2017～Society5.0の実現に向けた改革～」 等
次期基本構想	次期滋賀県基本構想(原案) 4 みんなで目指す 2030年の姿(3)社会 未来を支える 多様な社会基盤 「…ICT環境が整備されていて、家庭、学校、職場、地域など様々な場面で先端技術やデータが活用され、より便利で快適な生活や地域課題の解決に貢献しています。…」

## 新たな外国人材受入れのための在留資格の創設

### 1 在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設

- (1) 特定技能1号: 不足する人材の確保を図るべき産業上の分野に属する相当程度の知識又は経験を要する技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格
- (2) 特定技能2号: 同分野に属する熟練した技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格

### 2 受入れのプロセス等に関する規定の整備

- (1) 分野横断的な方針を明らかにするための「基本方針」(閣議決定)に関する規定
- (2) 受入れ分野ごとの方針を明らかにするための「分野別運用方針」に関する規定
- (3) 具体的な分野名等を法務省令で定めるための規定
- (4) 特定技能外国人が入国する際や受入れ機関等を変更する際に審査を経る旨の規定
- (5) 受入れの一時停止が必要となった場合の規定

### 3 外国人に対する支援に関する規定の整備

- (1) 受入れ機関に対し、支援計画を作成し、支援計画に基づいて、特定技能1号外国人に対する日常生活上、職業生活上又は社会生活上の支援を実施することを求める。
- (2) 支援計画は、所要の基準に適合することを求める。

### 4 受入れ機関に関する規定の整備

- (1) 特定技能外国人の報酬額が日本人と同等以上であることなどを確保するため、特定技能外国人と受入れ機関との間の雇用契約は、所要の基準に適合することを求める。
- (2) ①雇用契約の適正な履行や②支援計画の適正な実施が確保されるための所要の基準に適合することを求める。

### 5 登録支援機関に関する規定の整備

- (1) 受入れ機関は、特定技能1号外国人に対する支援を登録支援機関に委託すれば、4(2)②の基準に適合するものとみなされる。
- (2) 委託を受けて特定技能1号外国人に対する支援を行う者は、出入国在留管理庁長官の登録を受けることができる。
- (3) その他登録に関する諸規定

### 6 届出、指導・助言、報告等に関する規定の整備

- (1) 外国人、受入れ機関及び登録支援機関による出入国在留管理庁長官に対する届出規定
- (2) 出入国在留管理庁長官による受入れ機関及び登録支援機関に対する指導・助言規定、報告徴収規定等
- (3) 出入国在留管理庁長官による受入れ機関に対する改善命令規定

### 7 特定技能2号外国人の配偶者及び子に対し在留資格を付与することを可能とする規定の整備

### 8 その他関連する手続・罰則等の整備

(注) 特定技能1号外国人: 特定技能1号の在留資格を持つ外国人、特定技能2号外国人: 特定技能2号の在留資格を持つ外国人、特定技能外国人: これらの外国人の総称

## 法務省の任務の改正

法務省の任務のうち、出入国管理に関する部分を「出入国の公正な管理」から「出入国及び在留の公正な管理」に変更する。

## 出入国在留管理庁の設置

(1) 法務省の外局として「出入国在留管理庁」を設置し、同庁の長を出入国在留管理庁長官とする。

(2) 出入国在留管理庁の任務

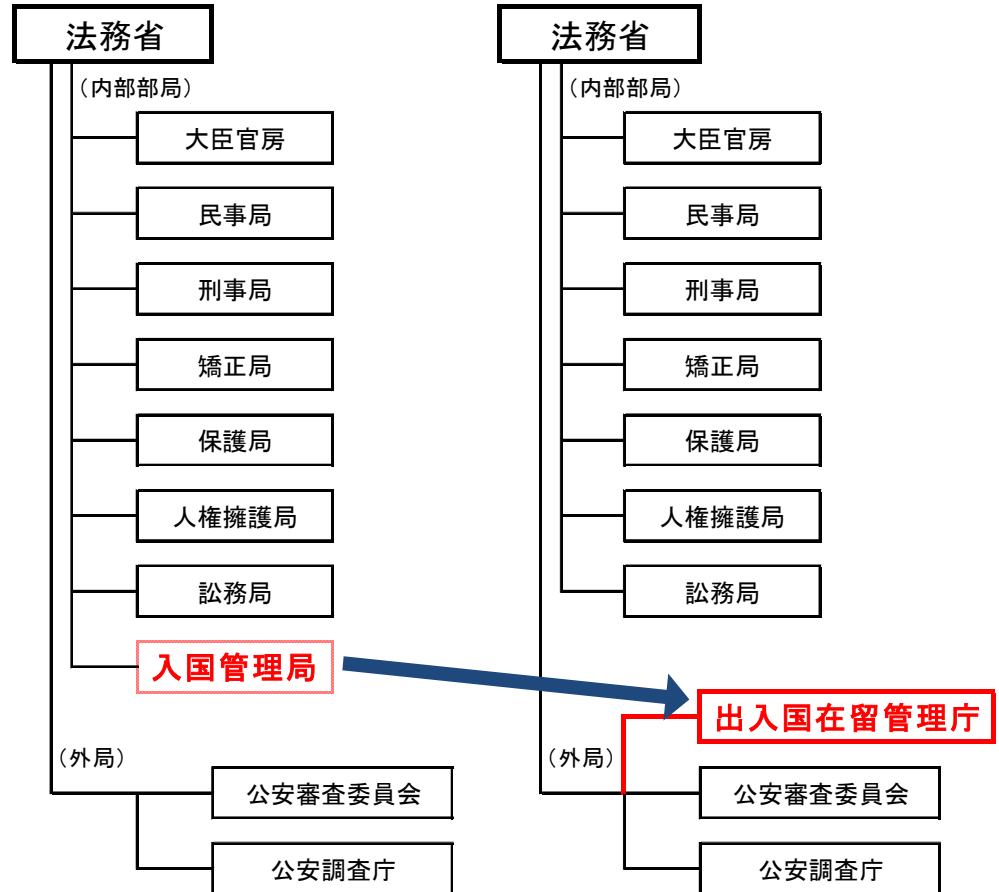
- ア 出入国及び在留の公正な管理を図ること
- イ アの任務に関連する特定の内閣の重要政策に関する内閣の事務を助けること

(3) 地方出入国在留管理局等の設置

法務省の地方支分部局である地方入国管理局を地方出入国在留管理局とし、出入国在留管理庁の地方支分部局として設置する。

## その他

- ・ 法務大臣と出入国在留管理庁長官の権限に関する規定の整備
- ・ 関係行政機関との情報交換等連絡協力に関する規定の整備
- ・ その他所要の語句の修正等



# 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（概要）

平成30年12月25日  
外国人材の受入れ・共生  
に関する関係閣僚会議

我が国に在留する外国人は近年増加（264万人）、我が国で働く外国人も急増（128万人）、新たな在留資格を創設（平成31年4月施行）

**外国人材の適正・円滑な受入れの促進に向けた取組**とともに、**外国人との共生社会の実現に向けた環境整備**を推進する。今後も対応策の充実を図る。

総額224億円(注)

## 外国人との共生社会の実現に向けた意見聴取・啓発活動等

### (1) 国民及び外国人の声を聴く仕組みづくり

「『国民の声』を聴く会議」において、国民及び外国人双方から意見を継続的に聴取

### (2) 啓発活動等の実施

全ての人が互いの人権を大切に支え合う共生社会の実現のため、「心のバリアフリー」の取組を推進

## 生活者としての外国人に対する支援

### (1) 暮らしやすい地域社会づくり

#### 行政・生活情報の多言語化、相談体制の整備

行政・生活全般の情報提供・相談を多言語で行う一元窓口に係る地方公共団体への支援制度の創設（「多文化共生総合相談ワンストップセンター(仮)」(全国約100か所、11言語対応)の整備)【20億円】  
安全・安心な生活・就労のための新たな「生活・就労ガイドブック(仮)」(11言語対応)の作成・普及  
多言語音声翻訳システムのプラットフォームの構築【8億円】と多言語音声翻訳システムの利用促進

#### 地域における多文化共生の取組の促進・支援

外国人材の受入れ支援や共生支援を行う受け皿機能の立ち上げ等地域における外国人材の活躍と共生社会の実現を図るための地方公共団体の先導的な取組を地方創生推進交付金により支援  
外国人の支援に携わる人材・団体の育成とネットワークの構築

### (2) 生活サービス環境の改善等

#### 医療・保健・福祉サービスの提供環境の整備等

電話通訳や多言語翻訳システムの利用促進、マニュアルの整備、地域の対策協議会の設置等により  
全ての居住圏において外国人患者が安心して受診できる体制を整備  
地域の基幹的医療機関における医療通訳の配置・院内案内図の多言語化の支援  
災害発生時の情報発信・支援等の充実

【17億円】

#### 気象庁HP、Jアラートの国民保護情報等を発信するプッシュ型情報発信アプリ Safety tips 等を通じた防災・気象情報の多言語化・普及(11言語対応)、外国人にも分かりやすい情報伝達に向けた改善(地図情報、警告音等)三者間同時通訳による「119番」多言語対応と救急現場における多言語音声翻訳アプリの利用、災害時外国人支援情報コーディネーターの養成

交通安全対策、事件・事故、消費者トラブル、法律トラブル、人権問題、生活困窮相談等への対応の充実

#### 交通安全に関する広報啓発の実施、運転免許学科試験等の多言語対応

「110番」や事件・事故等現場における多言語対応

消費生活センター(「188番」)、法テラス、人権擁護機関(8言語対応)、生活困窮相談窓口等の多言語対応

#### 住宅確保のための環境整備・支援

賃貸人・仲介事業者向け実務対応マニュアル、外国語版の賃貸住宅標準契約書等の普及(8言語対応)

外国人を含む住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅の登録・住宅情報提供・居住支援等の促進

#### 金融・通信サービスの利便性の向上

金融機関における外国人の口座開設に係る環境整備、多言語対応の推進、ガイドラインの整備

携帯電話の契約時の多言語対応の推進、在留カードによる本人確認が可能である旨の周知の徹底

### (3) 円滑なコミュニケーションの実現

#### 日本語教育の充実

生活のための日本語の標準的なカリキュラム等を踏まえた日本語教育の全国展開(地域日本語教育の総合的体制づくり支援、日本語教室空白地域の解消支援等)【6億円】

多様な学習形態のニーズへの対応(多言語ICT学習教材の開発・提供、放送大学の教材やNHKの日本語教育コンテンツの活用・多言語化、全ての都道府県における夜間中学の設置促進等)

日本語教育の標準等の作成(日本版CEFR(言語のためのヨーロッパ共通参照枠))

日本語教師のスキルを証明する新たな資格の整備

#### 日本語教育機関の質の向上・適正な管理

日本語教育機関の質の向上を図るための告示基準の厳格化(出席率や不法残留者割合等の抹消基準の厳格化、日本語能力に係る試験の合格率等による数値基準の導入等)

日本語教育機関に対する定期的な点検・報告の義務付け

日本語教育機関の日本語能力に関する試験結果等の公表義務・情報開示の充実

日本語教育機関に関する情報を関係機関で共有し、法務省における調査や外務省における査証審査に活用

### (4) 外国人児童生徒の教育等の充実

日本語指導に必要な教員定数の義務標準法の規定に基づく着実な改善と支援員等の配置への支援【3億円】  
地方公共団体が行う外国人児童生徒等への支援体制整備(ICT活用、多様な主体との連携)  
教員等の資質能力の向上(研修指導者の養成、地方公共団体が実施する研修への指導者派遣等による全国的な研修実施の促進)  
地域企業やNPO等と連携した高校生等のキャリア教育支援、就学機会の確保【1億円】

### (5) 留学生の就職等の支援

大卒者・クールジャパン分野等の専修学校修了者の就職促進のための在留資格の整備等  
中小企業等に就職する際の在留資格変更手続の簡素化  
文部科学省による大学等の就職促進のプログラムの認定等【6億円】  
留学生の就職率の公表の要請、就職支援の取組状況や就職状況に応じた教育機関に対する奨学金の優先配分、介護人材確保のための留学・日本語学習支援の充実【14億円】  
業務に必要な日本語能力レベルの企業ごとの違いなどを踏まえた多様な採用プロセスの推進  
産官学連携による採用後の多様な人材育成・待遇などのベストプラクティスの構築・横展開

### (6) 適正な労働環境等の確保

#### 適正な労働条件と雇用管理の確保、労働安全衛生の確保

労働基準監督署・ハローワークの体制強化、外国人技能実習機構の体制強化、「労働条件相談ほっとライン」の多言語対応(8言語対応)  
「外国人労働者相談コーナー」「外国人労働者向け相談ダイヤル」における多言語対応の推進・相談体制の拡充  
地域での安定した就労の支援

ハローワークにおける多言語対応の推進(11言語対応)と地域における再就職支援  
地域ごとの在留外国人の状況を踏まえた情報提供・相談の多言語対応、職業訓練の実施

### (7) 社会保険への加入促進等

法務省から厚生労働省等への情報提供等による社会保険への加入促進  
医療保険の適正な利用の確保(被扶養認定において原則として国内居住要件を導入、不適正事案対応等)  
納税義務の確実な履行の支援等の納税環境の整備

## 外国人材の適正・円滑な受入れの促進に向けた取組

### (1) 悪質な仲介事業者等の排除

二国間の政府間文書の作成(9か国)とこれに基づく情報共有の実施  
外務省(在外公館)、警察庁、法務省、厚生労働省、外国人技能実習機構等の関係機関の連携強化による悪質な仲介事業者(ブローカー)等の排除の徹底と入国審査基準の厳格化  
悪質な仲介事業者等の把握に向けた在留申請における記載内容の充実

### (2) 海外における日本語教育基盤の充実等

日本での生活・就労に必要な日本語能力を確認する能力判定テストをCBT(Computer Based Testing)により厳正に実施(9か国)  
国際交流基金等による海外における日本語教育基盤強化(現地教師育成、現地機関活動支援)  
在外公館等による情報発信の充実

【34億円】

## 新たな在留管理体制の構築

### (1) 在留資格手続の円滑化・迅速化

受入企業等による在留資格手続のオンライン申請の開始【12億円】  
在留カード番号等を活用した申請手続の更なる負担軽減、標準処理期間(2週間~1か月)の励行

### (2) 在留管理基盤の強化

法務省・厚生労働省の情報共有の更なる推進による外国人の在留状況・雇用状況の正確な把握  
業種別・職種別・在留資格別等の就労状況を正確に把握する仕組みの構築、公的統計の充実・活用  
出入国在留管理庁の創設に伴う出入国及び在留管理体制の強化【18億円】

### (3) 不法滞在者等への対策強化

警察庁、法務省、外務省等の関係機関の連携強化による不法滞在者等の排除の徹底【5億円】  
技能実習に係る失踪者情報等の収集・分析、これを踏まえた調査の徹底、実習実施者等に対する計画認定取消し等の運用の厳格化、平成29年における技能実習に係る失踪者等の悉皆調査・対応

(注) 予算額は30年度補正(2号)予算、31年度予算の措置額。このほか、関連予算として、地方創生推進交付金1,000億円の内数、(独)日本学生支援機構運営費交付金131億円の内数(留学生の就職等支援関連)、人材開発支援助成金571億円の内数(地域での安定就労支援関連)、不法滞在者対策等157億円等がある。